

平成 18 年度事業報告

自 平成 18 年 4 月 1 日

至 平成 19 年 3 月 31 日

1, 会員状況（平成 19 年 3 月 31 日）

名誉会員	14 名	前年度末（18 年 3 月 31 日）より 2 名増
正会員	1,185 名	前年度末（ " ）より 21 名減
学生会員	20 名	前年度末（ " ）より 2 名増
公益会員	18 所 18 口	前年度末（ " ）と同数
賛助会員	127 社 153 口	前年度末（ " ）より 3 社 3 口増
購読会員	139 社 146 口	前年度末（ " ）より 2 口増

2, 規則の制定及び改正

平成 20 年に予定されている公益法人改革に対応できるよう、制度・規則などの整備を積極的に行った。

- ・会計処理細則の制定 平成 18 年 4 月
- ・研究部会の運営に関する内規の制定 平成 18 年 4 月
- ・備品等の貸出規程の制定 平成 18 年 5 月
- ・受託事業に関する規程の改正 平成 18 年 7 月
- ・「騒音制御」投稿規程、執筆要領の改訂 平成 19 年 2 月
- ・資産運用規程の制定 平成 19 年 3 月
- ・文書取扱要領の制定 平成 19 年 3 月
- ・公印取扱要領の制定 平成 19 年 3 月
- ・葬祭に関する取扱要領の制定 平成 19 年 3 月

3, 会誌の発行

騒音制御 30 巻 2 号～31 巻 1 号の 6 冊を隔月に発行し会員に配布した。

1 号あたりの平均頁数は、本文 82 ページで、次の特集を企画した。

第 30 巻 2 号	騒音政策の展開
第 30 巻 3 号	建築音響関連測定の動向
第 30 巻 4 号	創立 30 周年
第 30 巻 5 号	音響振動計測の不確かさ
第 30 巻 6 号	騒音・振動評価に関する実験室実験と社会調査
第 31 巻 1 号	音の環境教育

4. 研究発表会の開催

(1) 平成 18(2006)年春季研究発表会の開催

平成 18 年 4 月 26 日に東京工業大学百年記念館において、オーガナイズドセッションによる研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

- ・オーガナイズドセッションは、遮音分科会、床衝撃音分科会、騒音伝搬分科会、低周波音分科会が担当した。
- ・基調講演論文 4 件
- ・招待講演論文 1 件
- ・一般講演論文 30 件

(2) 平成 18(2006)年秋季研究発表会の開催

平成 18 年 9 月 20 日～21 日に愛知工業大学エクステンションセンターにおいて研究発表会を開催し、講演論文集を刊行した。

- ・一般講演論文 69 件
- ・シンポジウム「未来の音環境」
- ・カタログ・材料・機器展示
- ・特別講演「2005 年日本国際博覧会(愛・地球博)の環境影響評価に関する総括」
(財)2005 年日本国際博覧会協会 黒瀬 英治

5. 選 奨

(1) 研究功績賞

研究功績賞は、騒音、振動、音環境に関し学術上及び技術上顕著な功績があると認められた本会の名誉会員または正会員に贈るもので、平成 18 年度研究功績賞受賞者は、次の方に決定した。なお、賞の贈呈は、通常総会で行う。

- ・大熊恒靖 (元リオン⑭)

「音響測定機器の国際統合化にかかるとの一連の研究業績」

- ・山下充康 ((財)小林理学研究所)

「音響にかかるとの一連の研究及び行政施策への業績」

(2) 守田栄論文賞

守田栄論文賞は、騒音、振動、音・振動環境に関し、学術及び技術の進展に貢献するところが大きい研究業績を本学会会誌に発表した本会の名誉会員、または正会員に送るもので、平成 18 年度守田栄論文賞受賞者は、次の方に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会で行う。

- ・「低周波音の聴覚閾値及び許容値に関する心理物理的実験」

犬飼幸男 ((独)産業技術総合研究所)

多屋秀人 ((独)産業技術総合研究所)

山田伸志 (放送大学)

落合博明 ((財)小林理学研究所)

時田保夫 ((財)小林理学研究所)

(3) 環境デザイン賞

環境デザイン賞は、公募により推薦された環境デザイン業績の中から音・振動環境の改善に顕著な貢献があると認められたものを選定して贈るもので、平成 18 年度環境デザイン賞は、次のとおり決定した。なお、賞の贈呈は、通常総会で行う。

- ・「京都市北部クリーンセンタートンネル吸音壁」

京都市

(株)熊谷組

(株)ガイアート T・K

ジオスター(株)

(4) 研究奨励賞

研究奨励賞は、本学会の研究発表会で優れた講演発表を行った新進の研究者、技術者に贈るもので、平成 18 年度研究奨励賞受賞者は、次の方に決定した。なお、賞の贈呈は通常総会で行う。

- ・朝倉 巧 (東京大学)

「ダクト型換気ユニットの遮音性能向上に関する検討」

- ・下山 力生 (岡山県工業技術センター)

「多層型吸音材料における吸音特性の最適設計」

- ・菅原 政之 ((財)空港環境整備協会)

「PE 法により気象の影響を考慮する航空機騒音予測モデルの基本的な考え方」

- ・林 健太郎 ((株)アクト音響振動調査事務所)

「畳上の振動測定に関する実験と検討」

- ・増井 正孝 (北陸瓦斯株式会社)

「主観評価実験による鉄道騒音の評価方法に関する実験的検討」

6. 特別講演会の開催

平成 18 年 5 月 24 日開催の平成 18 年度通常総会において、次の方による特別講演会 を実施した。

- ・「騒音振動行政の現状と課題」

環境省水・大気環境局大気生活環境室 室長 内藤 克彦

- ・「五感喪失時代～迷走する現代人の五感と、再生の可能性～」

五感生活研究所 山下 柚実

7. 懇談会の開催

会員同士が環境騒音問題を自由に議論し情報交換することを目的に、次のとおり環境騒音問題に関する懇談会を開催した。

- ・「Noise Policy における emission と immission」

平成 18 年 4 月 25 日東京工業大学百年記念館フェアイト記念会議室にて開催した。

話題提供者: Lawrence S. Finegold ((株)アン環境文化研究所)

荘 美知子 ((株)アン環境文化研究所)

- ・「Global Noise Policy とわが国の騒音政策」

平成 18 年 9 月 19 日愛知工業大学本山サテライトキャンパスにて開催した。

話題提供者：山本貢平（(財)小林理学研究所）、
橘 秀樹（千葉工業大学）

8. 技術講習会の開催

第 59 回技術講習会を平成 18 年 4 月 21 日神楽坂エミールにて開催した。

テーマ「生活騒音政策の現状と課題」

第 60 回技術講習会を平成 18 年 6 月 8 日～9 日神楽坂エミールにて開催した。

テーマ「騒音・振動技術の基礎と測定実習」

第 61 回技術講習会を平成 18 年 11 月 9 日～10 日神楽坂エミールにて開催した。

テーマ「騒音対策の基礎と考え方」

第 62 回技術講習会を平成 19 年 3 月 9 日神楽坂エミールにて開催した。

テーマ「騒音規制の手引き」

9. 出版

「騒音規制の手引 一第 2 版一」を刊行した。また、「騒音制御用語事典」については、執筆者からの原稿の最終まとめを行い、「(仮)お話シリーズ」については、出版準備を進めた。

10. 広 報

ホームページをリニューアルし、学会活動及び情報の公開について公益法人にふさわしく推進した。また、各種の主催・協催事業や部会・委員会活動の開催状況を周知した。

11. 調査研究

環境省より次の調査研究業務の委託を受け、業務を行った。

- ・環境省「平成 18 年度騒音評価手法及び規制手法等検討調査業務」
- ・環境省「平成 18 年度振動評価手法のありかたに関する調査検討業務」
- ・環境省「平成 18 年度低周波音普及啓発に関する検討調査業務」
- ・環境省「平成 18 年度騒音による住民反応(不快感)に関する社会調査業務」

12. 資格の認定

(社)日本騒音制御工学会認定技士資格制度に基づき、認定技士推進委員会を開催するとともに、認定技士活動の普及啓蒙に務め、新たな認定技士登録申請者の募集を行った。

13. 海外との交流

- ・2006 年 12 月にホノルルで開催された inter-noise 2006 にて共催団体者として開催に協力した。
- ・2008 年開催予定の低周波音国際会議の日本開催に協力することを決めた。
- ・2011 年開催予定の inter-noise 2011 の日本開催誘致に務めることとした。

14. 共催、協催

他学会の行事に対し共催依頼 2 件、協賛依頼 3 件があり、開催に協力した。

15. 30 周年記念事業の実施

- ・ ホームページをリニューアルした。
- ・ 「騒音制御」30 巻 4 号を 30 周年記念特集号として刊行した。
- ・ 平成 18(2006)年秋季研究発表会場で 30 周年記念事業として、記念式典、特別講演及びシンポジウムを行った。
- ・ 30 周年記念論説募集を実施し、応募論説を「騒音制御」30 巻 4 号に掲載し、30 周年記念式典において最優秀論説を表彰した。
- ・ 「騒音制御」創刊号から 30 巻 6 号までの特集記事と論文を電子ファイル化し、収録した記念 DVD を全会員に配布した。
- ・ 賛助会員情報を検索ソフトとともに CD 化し、全会員に配布した。